



Waseda University

2000年度

早稲田大学図書館年報



2000年度 早稲田大学図書館年報

2001年6月15日発行

発行人 浦川 道太郎

編集・発行 早稲田大学図書館

〒169 8050 東京都新宿区西早稲田1 6 4

TEL:03 5286 4652





C O N T E N T S

館長あいさつ
「電子情報化と大学図書館の役割」
図書館の動き
Web利用によるデータベースの導入
早稲田大学統合マルチアーカイビングサービス (IMAS) の導入について
図書館組織図
統計
図書館日誌
主要行事
年間刊行物・印刷物
主な海外からの来訪者
人事
資料 / 中央図書館・キャンパス図書館(高田早苗記念 研究図書館、戸山図書館、理工学図書館、所沢 図書館)業務統計



早稲田大学図書館
館長 浦川 道太郎

電子情報化と 大学図書館の役割

わが国でも、首相直属の機関としてIT戦略本部が設置され、急速に発展する情報通信技術を活用して、5年以内に世界最先端のIT国家となることを目指し、社会生活のあり方を大きく変えようとする努力が開始された。このようなIT革命と呼ばれる社会的な大きな動きに対して、大学図書館もけっして無縁ではない。大学図書館もコンピュータ技術と情報通信技術の結合の中で、極めて大きな変革の時期を迎えつつある。

その1つは、取り扱うメディアの変化である。グーテンベルクの活版印刷術の発明以来、約5世紀間にわたり、図書館は、主として印刷された図書資料を収集・保管し、利用に供してきた。レコード、マイクロフィルムに始まり、ビデオ、CD、LD、DVDと、収集・保管・提供する記録媒体の種類は多様化する一方である。

また、第2に、情報の提供方法の変化も著しい。すなわち、従来であれば、図書館は、情報の記録媒体自体を収集・保管し、それを利用者に直接的に提供することを主要な役割としていた。しかしながら、IT革命は、この図書館の役割を大きく変え、図書館は、外部に蓄積されたDB(データベース)や電子ジャーナルに接続し、そこから情報を引き出す役割も担うようになった。すなわち、書庫の機能のみならず、外部情報へのアクセス・ポイントの機能も受け持つようになったのである。

早稲田大学図書館も、このような変革の時代に呼応し、多様な情報メディアを利用する設備を備え、また、外部のDBや電子ジャーナルを利用できる環境の整備に努めてきた。マイクロ資料室・AVルームの設置、WINEの導入、情報端末の配置等々、これらはすべて変革の時代に対応するための努力である。

図書館を取り巻く環境の大きな変化への対応という点からみると、早稲田大学図書館は、2000年度において、さらに大きな飛躍を示した。IMAS(統合マルチアーカイビングサービス)の完成がそれである。IMASを構成する自動化書庫は書籍に換算すると50万冊の収容能力があるが、これは図書資料のみならずあらゆる記録媒体をWINE上のOPACと連動して整理・保管・提供可能にするものである。また、IMASのデジタルアーカイブ機能は、学内のあらゆる記録媒体に蓄えられた情報のみならず学外のDBをも網羅して、情報検索と提供の便を図るものである。このIMASによって、私たちは、自ら出向いて必要な資料を探して利用するという従来型の図書館から、利用者の机上の情報端末(パソコン)の中にひとりひとりが情報の宝庫たる図書館を持つ形に一步を進めることができた。

早稲田大学図書館は、創立125周年に向けて、アクティブライブラリ構想を打ち出し、IT革命が進む時代の教育研究を十分に支援できる体制を組み立てようとしている。本年報の記事と資料を通して、図書館の積極的な取り組みをご理解いただければ幸いです。



利用規則の平準化と「どこでも返却」の実施

1999年4月より図書館運営担当理事の諮問機関として発足した図書館行政懇談会は「図書館サービスの質的な向上と量的な拡大をめざすことを前提とし、より効率的な図書館資源の活用と利便性の拡大をはかることを目的として、中央図書館およびキャンパス図書館における図書貸出にかかる利用規則を各館共通とし平準化をはかること」として答申をとりまとめた。答申を受けて図書館では中央図書館および高田記念図書館、戸山図書館、理工学図書館、所沢図書館において、利用者レコードの統一、貸出上限冊数の平準化、罰則の平準化、貸出延長回数および手続きの平準化、をはかり、2000年6月1日から実施にうつされた。このこととあわせて、図書館では、利便性の一層の向上をはかる趣旨から貸出館にかかわらず、学内どここの図書館でも貸出図書の返却手続きをうけつける「どこでも返却」サービスを続々7月1日から開始した。さらに、従来より強い要望のあった中央図書館研究図書の学部学生にたいする日本語図書貸出について10月1日よりサービスを開始した。

西早稲田キャンパス学生読書室のWINE参入

うえでのべた図書館行政懇談会の議論のなかでは、利用規則の平準化にかかわる検討とあわせて、西早稲田キャンパスの各箇所学生読書室および研究所等図書室の分散的な管理・運営体制ならびにそこで提供されるサービスについて一定の方向性を出すべきとの指摘があった。西早稲田キャンパスの各学生読書室は、各箇所独自に図書館パッケージシステムを運用していたが、2000年度から順次リソースアップの時期をむかえることからこれを契機としてWINEネットワークに参入することにより箇所ごとにかかっていたシステム運用経費の節減をはかり、あわせて各学生読書室のネットワーク参入による機能的統合をすすめることとした。もとより西早稲田キャンパスの各箇所学生読書室はそれぞれ学部等各箇所が所管しているが、今後、これら学生読書室と中央図書館およびキャンパス図書館の一層の協力、連携がすすめられることとなる。なお、2000年3月より社会科学部学生読書室から順次、ネットワーク参入の作業をすすめ、2000年度初頭をめどに作業を終了する予定である。

Web of Scienceをはじめとした外部データベースの導入

近年、ネットワークを利用した電子媒体による学術情報の利用は大学における教育・研究活動支援、とりわけ図書館サービスの展開のうえで必要不可欠のものとなりつつある。図書館としては、OCLC FirstSearchサービス導入(1996年)をはじめとして、平凡社世界大百科事典のネットワーク版である「ネットで百科」などの各種学術情報データベース、さらに、各種のフルテキスト電子ジャーナルや各キャンパス図書館におけるキャンパスLANを利用した各種学術情報提供サービスなど、こうした電子媒体による学術情報の提供にかんして努力をつづけている。2000年度には、特に自然科学系の研究者から強い要望のよせられていたWeb of Scienceを教務部などの関係箇所の協力もえながら導入することとし、10月よりサービスを開始した。これら以外にも導入を予定・検討しているデータベースも数多い。

しかしながら、ネットワークを利用した電子媒体による学術情報の提供には、多額の費用がかかることも事実である。とりわけ昨今の電子媒体による学術情報の導入にかかる予算執行にかんして、現在の図書館関係予算交付と執行のしくみがおおきな障害となりつつある。大学全体の財政状況が厳しさをます昨今、学内における学術情報資源の共同利用をさらに促進する方策を検討する一方で、学外諸機関との共同ないし連携も模索する必要が生じている。電子媒体による学術情報の導入といった事例にとどまらず、学術情報資源の共同利用という観点から、大学全体の図書館関係予算のあり方について検討する時期にきている。

「Web利用によるデータベースの導入」(P.4~P.5)参照。

「アクティブライブラリ構想」と「統合マルチアーカイビングサービス」(MAS)の完成

1999年10月、「21世紀の教育研究ランドデザイン策定委員会」に、図書館は「アクティブライブラリ構想」を提案した。構想では、WINEを基盤として、しかし必ずしもWINEの枠にとどまらずに、WWW情報源、電子媒体による学術情報資源などを射程に入れた教育研究と図書館システムの一体化をめざし、いわば、利用者の欲する資料を「いつでも」「どこでも」「何でも」可能とするシステムをめざすとした。図書館では、教務部情報企画課などとも協力して1999年12月に「統合マルチアーカイビングサービス」(MAS)プロジェクトを発足させ、「アクティブライブラリ構想」実現にむけた取組みをすすめた。このプロジェクトにたいしては、1999年度政府補正予算による補助金が交付された。なお、2000年3月3日には完成記念披露式典が学内外関係者を集めて盛大に開催された。

MASは、「フィジカルアーカイブ」と「デジタルアーカイブ」から構成される。「フィジカルアーカイブ」は、中央図書館地下3階に増設した自動化書庫システムのことをさし、コンピュータによって種々の資料(図書、マイクロフィルム、CD等)の出納を管理し、約50万冊の資料を収蔵することが可能である。また中央図書館内のWINEシステム検索端末からも、出庫請求を行うことができ、集密移動式書架とコンピュータシステムとの連動により、スペースの節約と省力化が実現した。「デジタルアーカイブ」は、統一インターフェイスから、様々な情報源(WINE、ホームページ、百科事典、雑誌記事、学内構築データベース、音声・映像・画像などデジタルコンテンツ、早大教員の研究活動状況等)の統合的な検索を実現した。MASは、2000年4月より本格運用にはいっており、図書館としては今後とも、利用者の多様な要求にこたえるために、情報アクセス手段の充実に努めていく所存である。

「早稲田大学マルチアーカイビングサービス(MAS)の導入について」(P.6~P.12)参照。



図書館行政懇談会(第二次)の設置

図書館運営担当理事の諮問機関として2000年度より、図書館行政懇談会(第二次)を設置することとした。ここでは「全学的に使いやすい図書館」、「利用者サービスのさらなる向上」、「予算のより有効な活用」を目的とした図書館行政懇談会(第一次)での成果をふまえて、さらに、全学的な視野にたつて、この目的を達成するために必要な図書館行政のあり方について討議していただくことになる。今回の懇談会では中央図書館、キャンパス図書館および各箇所図書室のさらなる連携・統合をめざして、全学図書館システムの管理・運営面について改革・改善の方向性について積極的な提言を期待している。具体的には、図書館予算のあり方、キャンパス図書館・箇所図書室等の分野別再編のあり方、雑誌バックナンバーの集約・共同管理のあり方と雑誌センター構想、他大学・他機関図書館との連携・協力体制(コンソーシアム)の模索、などが検討の柱となる。

早稲田大学統合マルチアーカイビングサービス (MAS) の導入について



1. 図書館システムとしてのIMAS

1998年11月に、図書館は蔵書目録検索システム(WINE)の更新を行った。米国 Innovative Interface社の提供するINNO PACを導入して、インタフェースの改善や検索機能の向上などを実現し、利用者から歓迎されるとともに、図書館界の注目を集めた。その後も図書館では、このWINEシステム更新の成果を基礎としながら、その枠にとどまらない新たな情報サービスの展開を検討してきた。

1999年秋に図書館は、大学の「21世紀の教育研究グランドデザイン策定委員会」に、「アクティブライブラリ構想」を提案した。その趣旨は、研究教育と一体化した情報サービスを提供していくために図書館システムを拡充する、ということであった。その後、「アクティブライブラリ構想」をより具体化したものとして、「統合マルチアーカイビングサービス」(Integrated MultiArchiving Service:IMAS)を提案し、理事会の承認を得た。

2 アクティブライブラリ構想

従来の図書館業務は、図書や雑誌や視聴覚資料など、受け入れた資料を整理して目録情報を作成し、所定の位置に置いて閲覧の用に供したり、貸出や複写などのサービスで利用者の便宜をはかってきた。しかし、近年におけるネットワークやメディア技術の発展は、教育研究スタイルを変貌させつつあるのと同様に、図書館サービスのあり方にも再検討を迫っている。具体的には、WWW上の情報源や各種の電子化テキスト、マルチメディア資料などを射程に入れた、より広範囲な情報提供の可能性を模索することの必要性が認識されるようになった。

このような問題意識から、「アクティブライブラリ構想」では、次のような機能を実現することによって、独立した図書館システムから、研究教育と一体化した図書館システムへの拡張をめざしている。

(1 図書館システムを直接意識しない図書館システム利用の促進(例:辞書/事典等とのインターフェース、教員が作成するWebページの参考図書紹介からのリンク、個々の学問分野への学習案内のハイパーテキスト化など)

(2 図書館蔵書に閉じない資料提供(例:有償/無償データベースや他図書館システムとの連動、電子ジャーナルや著者・出版者情報のWebサイトへのリンクなど)

(3 高付加価値メディアライブラリの提供(例:図書館所蔵の貴重資料のデジタル化、加えて、対象資料によって注記の選択的表示や彩色処理を可能にする仕組の実現など)

(4 各種Webサイトの連携促進(例:Webページリストの充実、学術情報関係のWebサイトの自動/半自動収集、WINEシステムとの融合など)

(5 世界に向けた情報発信(世界標準としてのWINEシステムの活用、世界規模でのILL/リソースシェアリングへの積極的参加など)

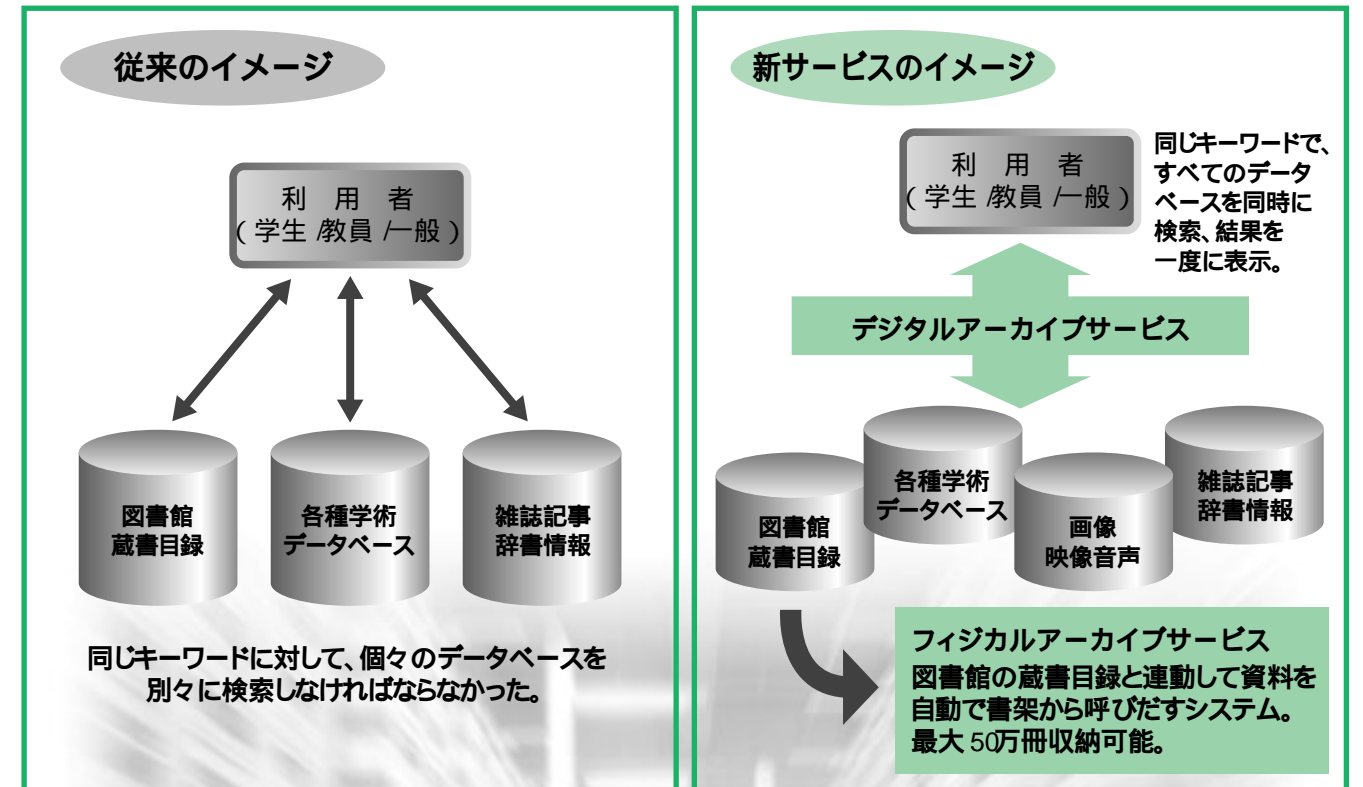
3 IMAS 構想

「アクティブライブラリ構想」は具体的には統合マルチアーカイビングサービス(Integrated MultiArchiving Service)というプロジェクトとして展開されることとなった。その目的はさまざまな媒体で、さまざまな形式で表現されている種々のコンテンツに対して、いかにその違いを意識せずに必要な情報にアクセスできるか、という問題を解決していくことにあり、一方では、情報の提供側として、既に発信している様々な形での情報を統合して保管・貯蔵し、

利用者に広く提供していくことにある。

IMASではデジタル情報だけでなく、もう一つの柱として、物理的な質量を持つ情報(図書をはじめとした様々な媒体資料)の収蔵スペースすなわち「フィジカルアーカイブ(資料保管庫)を位置付け、「デジタルアーカイブ(デジタルデータ保管庫)とあわせてマルチアーカイブとして再構成し、統合されたユーザーインターフェースのもとで管理・運用していくことになった。

早稲田大学 統合マルチアーカイビングサービス(IMAS)イメージ図





4 デジタル・アーカイブ

1) デジタルアーカイブの考え方

アクティブライブラリ構想を実現する一環として、IMASデジタルアーカイブプロジェクトが1999年11月に開始された。プロジェクトの進捗については後述するとして、ここでは、デジタルアーカイブ構築にあたっての基本的な考え方を述べる。

「デジタルアーカイブ」が想定しているのは、サービスとして提供すべきコンテンツがさまざまな情報源(学内外、国内外)として、多様な形式で存在しているということである。従来は、情報探索の目的に応じて、どのような書誌索引類あるいはデータベースにあたるべきかなどをまず考える必要があった。図書館のレファレンスサービスの意義のひとつはまさに、利用者のそのような探索行動を援助することにある。しかし、年来にわたり指摘されてきた「情報洪水」は情報環境の変貌により、いよいよはなはだしくなっている。一方で自宅や研究室から各種情報源にアクセスする機会が増え、利用者にとっては場所の制約をうけず手軽に、そしてわかりやすく、求める情報にたどりつける仕組みが望まれているといえる。

「デジタルアーカイブ」がめざすのは、こうした要望に対応できるよう、統合的なインターフェイスを提供して、さまざまな情報源にアクセスできるようにすることである。ひとつのキーワード(たとえば人名)は、関連する書籍はもとより、論文、手稿、録音、映像、授業、あるいはそれらを提供する団体のホームページなど、多様な検索結果を導く可能性があり、その必要度は探索者によってまったく異なるであろう。しかしサービスとしては、多様な可能性を保障し、どのような人にも求める情報がもれなく提供できるように配慮することが必要である。統合的なインターフェイスの実現にはそうした意義がある。このことは、アクティブライブラリ構想においてすでに意識されていた。このような考え方から、統合的なインターフェイスの実現をめざし、デジタルコンテンツ管理、URLの収集・検索、利用者認証、そしてIMASフィジカルアーカイブとWINEシステムとのデータ連携などをサブシステムとして、「デジタルアーカイブ」の検討を進めることになった。

2) プロジェクトの進捗

IMASデジタルアーカイブプロジェクトの発足にあたっては、図書館、教務部、およびメディアネットワークセンター(MNC; 現教務部情報企画課)で協議を行うとともに、大学理事会の考えも確認し、大枠を定めていくことになった。当初より想定したのは、「フィジカルアーカイブ」と並んで、「デジタルアーカイブ」についても、19

99年度政府補正予算補助金に申請を行うことであった。その前提で、大学のシステム構築に何らかの形でかわりのある4社に対して「デジタルアーカイブ」に対するシステム提案を要請し、1999年12月に各社からの提案を受けた。早大側でそれらを検討した結果、2社(NTT東日本および日本IBM)に絞ってさらに選定することになった。2000年1月、両社からの再提案を受けて検討を行い、システム構築は1社に絞らず2社それぞれに、役割を分担して遂行してもらうという結論に達した。それをふまえて引き続き、文部省(当時)への申請を申請を行った(審査の結果、採択となった)。

「デジタルアーカイブ」プロジェクトの立ち上げに際しては、学内横断的なワーキンググループを設けて、図書館、MNC、教務部等の関係箇所のメンバーがそれに加わり、基本的な方向性について確認を行った。実際の構築作業に移行してからは、主として図書館とMNC(後に情報企画課)の担当者を中心として業者との交渉を重ねることになった。

業者を1社ではなく2社としたのは、提案内容に一長一短があって絞りきれなかったことが大きい。複数業者との協議には調整の煩雑さを免れえなかったが(とりわけ初期段階)、それぞれの持ち味を生かせるような分担により、作業を依頼した。すなわち、上述のWINEとフィジカルアーカイブの連携機能については、WINEシステムの構築に関わり、またWINEのデータにも詳しい日本IBMに依頼した。また、デジタルコンテンツの管理でも、同社が提案する製品「Digital Library」(後に「Contents Manager」と名称変更)がすぐれた実績を有していると判断されたことから、この製品を用いての開発に委ねた。他方、NTTに対しては、同社の提案に美点の見出された部分、すなわち、統合的な検索インターフェイス、学内既存データベースの横断検索(同社は文学部等でデータベース構築に関わっていた)さらに、Web検索エンジンについて担当するよう依頼した。2001年1月末を完成の目途として取り組むことになった。

次節で述べるように、IMASデジタルアーカイブは幾多の構成要素からなっている。各部分が漸次に形を整えて、相互に影響しあって動く部分についてはその整合性を確認することを繰り返して、全体が仕上がっていった。諸般の事情から、当初予定した機能のうちで実現に至らなかったものがある(たとえば利用者認証の仕組み)。また、スケジュールは予定したよりも遅れざるをえなかったが、2001年度3月に完成して、一般への公開も2001年4月に開始した。



MASのトップページ
(早稲田大学図書館のホームページからたどることができる。)

3) IMASデジタルアーカイブの概要

(1) IMAS検索

IMAS全体にとってのいわばトップページであり、統合的な検索インターフェイスを提供する。多様な情報源から求めるものを的確に選び出して利用できることをめざしている。1回の検索で、複数のシステムそれぞれの該当件数が得られ、利用者はそこから対象を絞って詳細情報を確認する。現時点で、今後もサービスなどを検討していく予定である。IMAS検索の対象となるのは下記の情報源である。

- ・図書館蔵書目録(早大図書館システムWINE)
- ・教員の研究活動状況(早大教員の著書、論文その他の情報)
- ・学術Web(早大内)
- ・デジタルコンテンツアーカイブ
- ・早大データベース
- ・学術Web(一般URL)
- ・雑誌記事索引(国会図書館作成)
- ・海外雑誌記事索引(仏国立科学技術情報センター提供)
- ・ネットで百科(世界大百科事典)

上記サービスは、従来から個別にWebでの提供を行っていたものと、今回のプロジェクトによって完成されたものからなる。次項以下で、IMASデジタルアーカイブによる新たなサービスを紹介する。



② 学術Web

Webページの全文検索を行う。通常の検索エンジンと異なり、起点となるURLを選定し、それらのページからリンクされている情報源を対象として検索を行う。起点を大学関係のページに置くことによって、研究教育への関連度の高い情報を収集できるようにしている。検索対象が学内ページ限定か否かによって入り口を分けて提供している(上記「早大内」と「一般URL」との区分)。これは、NTT東日本提供のTITANという製品を基礎にしている。

③ デジタルコンテンツアーカイブ

静止画、動画、音声など、早大図書館が保有するデジタルコンテンツを格納して、キーワードや画像レイアウトでの検索を行う。日本IBMのContents Manager(旧称Digital Library)という製品を採用し、コンテンツの登録や検索等のインターフェース部分の開発を同社に依頼した。これまで格納しているコンテンツとしては、図書館所蔵貴重書の画像、本学教員の最終講義(動画と音声)、本学学位論文の2次情報(タイトル、著者等)などがある。

④ 早大学術データベース

学内の様々な関係データベースに対し、キーワードによる横断的な検索を実現した。従来、関係データベース検索では、SQLなどの問合せ言語を用いる必要があったが、ここでは、キーワードのみの簡易なインターフェースによる検索を実現している。学内のデータベースのうち、一定の技術的な要件に合うものを選んでサービスを提供している。現在は、「會津八一収集器コレクション」ほか13のデータベース(文学部および大学史資料センターが提供しているもの)を横断検索の対象としている。これはNTT東日本のDBSENAという製品に基づいて構築した。

⑤ 「フィジカルアーカイブ」との連携

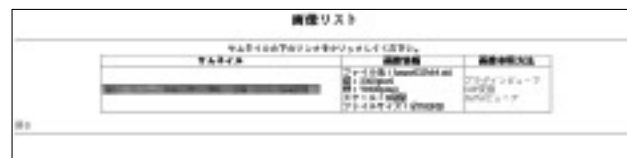
IMAS「デジタルアーカイブ」の枠組で開発した今一つの柱は、「フィジカルアーカイブ」とWINEシステムとの連携である。WINEのOPAC検索で得られた結果画面において、配架場所に「中央/1F 自動書庫」という表示が出て、かつ現況が「利用可能」である場合は、配架場所欄に出庫請求用の「取出し」ボタンが出る(当面、中央図書館に設置されたOPAC端末に限定して適用)。それをクリックすることにより、書庫管理システムにデータが送られ、当該資料を収蔵するコンテナがカウンターに自動的に呼び出される仕組みになっている。これについては、WINEの機能とデータに詳しい日本IBMに開発を委ねた。



[学術Web]



[デジタルコンテンツアーカイブ]



デジタルコンテンツアーカイブにおいて数種の画像蓄積方式で保管することができる。

5 フィジカルアーカイブ

1) フィジカルアーカイブ構築の背景

中央図書館は1991年4月に開館した。開館時から既に収容量200万冊の既設書架に加えて、将来の増設書庫として、地下3階部分に天井高が2層分に相当する倉庫を設備していた。開館時には余裕をもってスタートした書庫スペースであったが、通常の年間受け入れ図書に加えて、寄贈や教員の退職にともなう返還等の増加により、1995年の段階で既にその収容対策の必要性が指摘されていた。

1999年に至って、配架図書の増加にともなう中央図書館研究書庫の書庫スペース管理はかなり厳しくなり、また戸山図書館や所沢図書館など、収容できる絶対量の少ないキャンパス図書館の書庫の狭隘化も中央図書館以上に深刻な課題となってきた。

このように中央図書館のみならずキャンパス図書館や各学部等の図書室を含めて書庫の狭隘化が深刻になりつつある事態を重視し、1999年6月、図書館は理事会に「図書資料の収納改善の方向性について」として中央図書館地下3階の書庫増設を提案した。

2) フィジカルアーカイブの考え方(書庫発想の転換)

前述の「図書資料の収納改善の方向性について」と題した提案のなかで図書館は、以下に述べる事由により、従来の書庫イメージを一新し、コンピュータシステムと保管庫機能を融合させた管理方式の採用を提案している。すなわち、早稲田大学中央図書館は(1)既に地下1・2階に130万冊収納可能な研究図書開架ゾーンを持っており、それほど開架にこだわる必要はない(2)一部資料を除いて目録データ入力が行われており、コンピュータ検索が可能である(3)地下3階という構造上の制約と利用上の安全確保の面から無人管理が望ましい(4)メーカーから無人管理による自動書庫システム構築が可能であるとの提案がある、といった事由である。

発想の転換を促した特徴は以下のことであった。図書の特定にあたっては、独自のキーであるBID(Book Identification)バーコード管理することで、効率的に収納を可能にするシステムの構築が可能になる。すなわちこれまでの書架のように資料の配列を気にすることなく、その大きさに着目して集中して収納管理することにより効率的な収納が可能となる。もちろん、資料を利用しようとする側からは、検索システムで資料の特定が可能であることに加えて、同一画面から出納指令が可能であることが条件としてある。

3) フィジカルアーカイブ・プロジェクトの進捗

1996年に図書館からの提案を受け、大学としてプロジェクトの基本構想を了解した理事会は計画の具体化に着手し、「フィジカルアーカイブ」を担当する業者の選定作業に入る。1999年12月1日、入札参加業者選定委員会を開催し、株式会社イーキ、金剛株式会社、日本ファイリング株式会社、株式会社日立製作所の4社を選定した。

その後、理事会は決定した4社に対して、仕様上の基本条件を示して提案書および見積りの要請を行った。その際の基本条件は、(1)コンピュータによる自動管理とし、利用者の出入りは想定しない、(2)資料の取り出し口は「階研究書庫カウンター裏の事務室とする、(3)収納量は図書に換算して50万冊を確保できること、なお収納するものは図書に限定せず、CD-ROM、マイクロフィルム、カセットテープなども対象とする、(4)図書館システム(OPAC)画面からの取り出し命令を前提とする、(5)アクティブな資料管理を予想し、時間に100コンテナの出納を保証すること等であった。

企画提案説明および入札の結果、「フィジカルアーカイブ」(自動化書庫)設備業者は金剛株式会社に決定した。また平行して、設備に関連する間仕切り、搬送路等の工事業業者および図書館システム(WINE)との連携プログラムを担当する業者も、それぞれ見積り合せの結果、戸田建設、日本IBMと決定した。

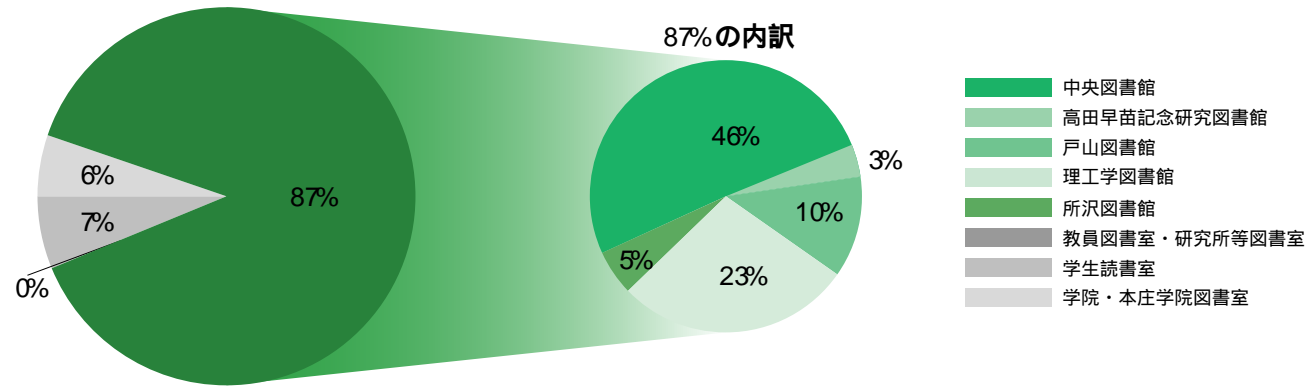
2000年2月4日の理事会において承認を受け、前述の「デジタルアーカイブ」と一体となった「統合マルチアーカイビングサービス(MAS)」は、統合マルチアーカイビングシステムの構築として文部省1999年度第2次補正予算「最先端研究所等整備特別事業」に補助金申請をおこなうことになり、それが幸いにも補助金対象事業と認められた。一方で予算の制約の関係から原則として年度内の完成が求められていたが、搬送路を確保するための構造床の貫通工事、書架レールを固定するためのためのアンカー打ちなど振動と騒音をともなう設備工事が必要であり、工期が図書館の閉館時期に特定されたことから期間延期申請を行い、結果として工事開始が夏季休業期にずれ込むことになった。

設備の完了、システムの試運転の成功を受けて、2000年1月14日、新宿消防署の検査を受け、承認のおりた1月24日が実質的に竣工、引渡し日となった。その調整運転を兼ねて図書資料の入庫作業をおこない、2000年3月末現在、旧蔵図書約2万冊を入庫している。



利用状況

利用状況：貸出冊数(2000年度)



利用状況：貸出冊数

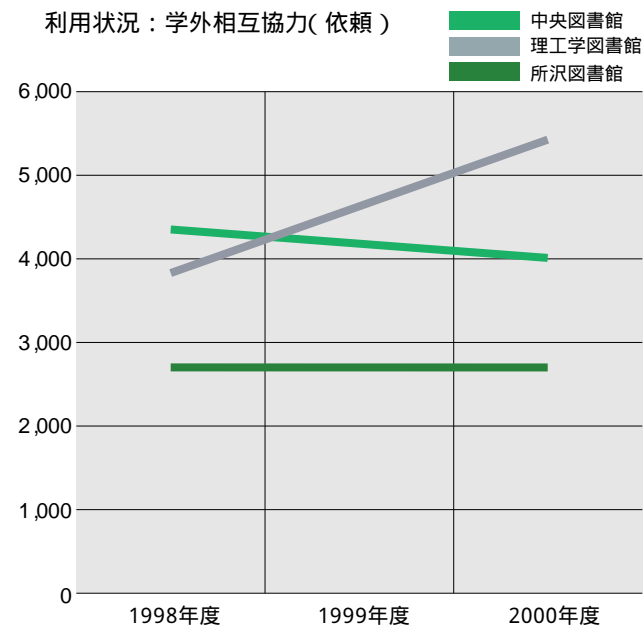
施設	貸出冊数
中央図書館	375,069
高田早苗記念研究図書館	27,366
戸山図書館	81,172
理工学図書館	186,356
所沢図書館	39,789
教員図書室・研究所等図書室	3,210
学生読書室	53,726
学院・本庄学院図書室	46,821

利用状況：入館者数

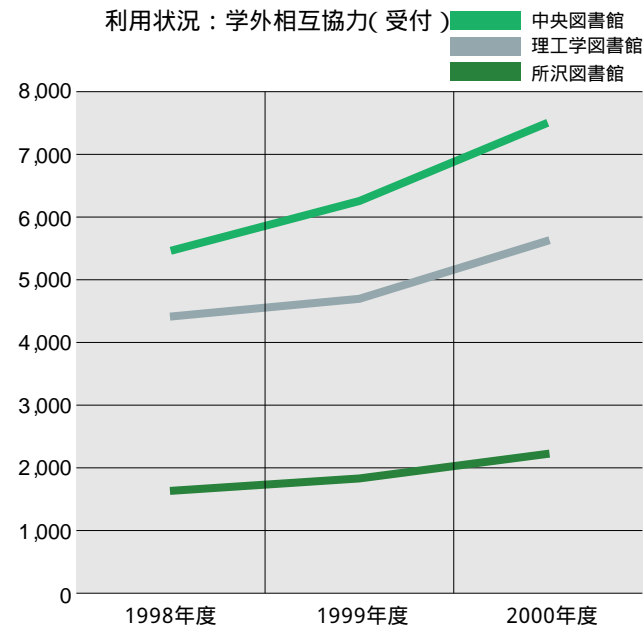
	教職員	大学院学生	学部学生	校友	その他	合計
中央図書館	21,678	136,939	873,137	146,784	46,198	1,224,736
高田早苗記念研究図書館	4,127	42,218	1,981	428	1,496	50,250
戸山図書館	6,436	41,115	388,414	27,683	9,797	473,445
所沢図書館	3,246	16,533	91,321	1,240	2,942	115,282

1 理工学図書館の入館者数は、システムの関係上集計されていない。
2 高田早苗記念研究図書館の学部学生の利用は、その他に含まれる。

利用状況：学外相互協力(依頼)



利用状況：学外相互協力(受付)



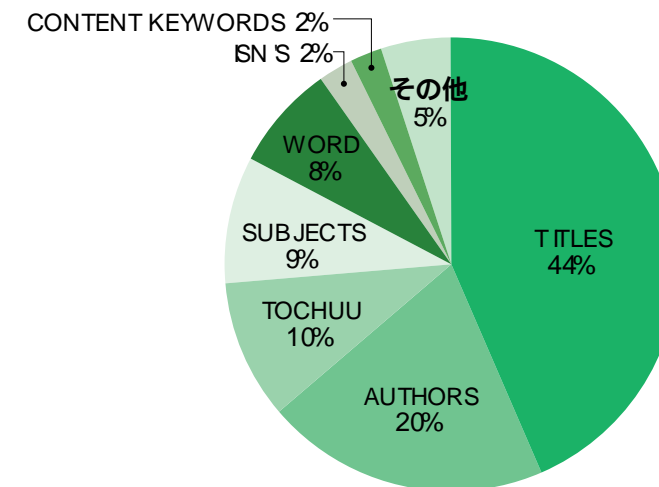
利用状況：学外相互協力

施設	依頼	1998年度			1999年度			2000年度		
		文献複写	紹介状	資料貸借	文献複写	紹介状	資料貸借	文献複写	紹介状	資料貸借
中央図書館	依頼	1,552	1,720	554	1,988	1,673	1,011	3,020	1,008	1,374
	受付	2,820	2,257	537	3,187	2,381	738	4,645	855	2,016
理工学図書館	依頼	3,834	294	175	3,809	242	192	3,415	311	228
	受付	2,828	1,457	133	3,191	1,178	192	4,461	46	1,004
所沢図書館	依頼	2,606	47	75	2,550	72	83	2,579	73	65
	受付	1,469	32	1	1,669	31	14	2,358	16	25

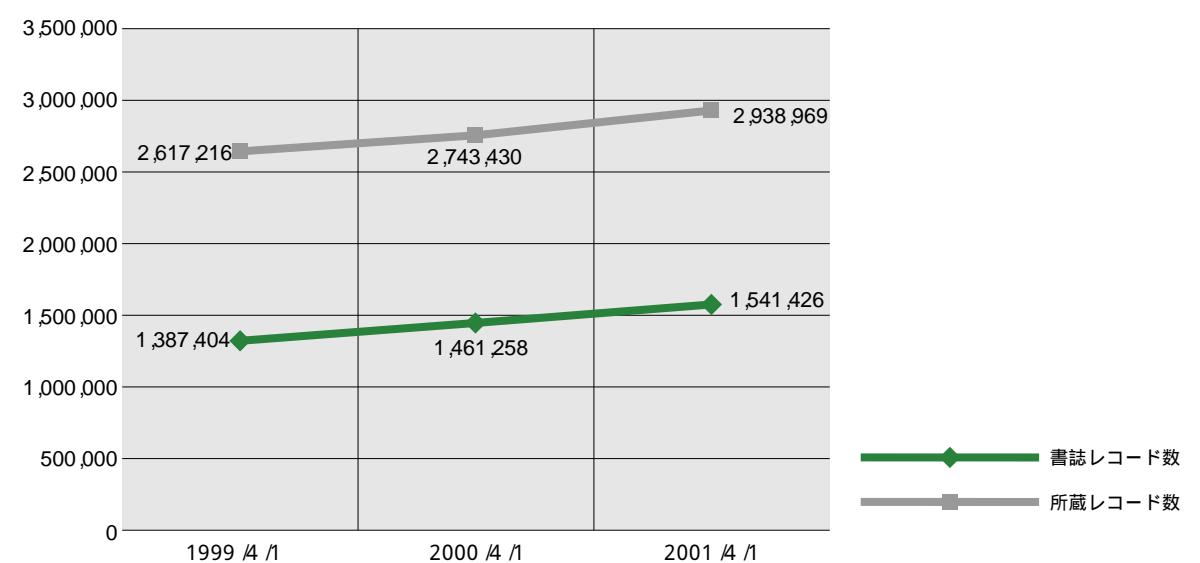
高田・戸山は中央図書館の件数に含まれる。

WINE統計

索引項目別利用率(2000年度)



WINE書誌・所蔵レコード数推移(1999/4/1~2001/4/1)





2000年

- 4.1 ベクショー大学(スウェーデン)学長
- 4.3 北京大学前校長
- 4.5 カイロ大学(エジプト)前学長
- 4.7 ロシア極東国立総合大学学長夫妻
- 4.10 ソルボンヌ大学前総長
- 4.14 上海市科学技術協会訪日視察団
北京市高等教育関係者訪日視察団
- 4.19 カンザス大学図書館職員
- 4.20 西安交通大学職員
又松大学(韓国)図書館職員
(株)教保文庫(韓国)社員
チャナッカレ大学(トルコ)学長
- 4.24 ブカレスト大学副学長
- 4.25 ライデン大学総長
アムステルダム大学総長
- 5.9 釜山大学校総長
- 5.16 高麗大学校総長
ヴィリニウス大学(リトアニア)副学長
- 5.17 ハワイ大学マノア校図書館職員
- 5.19 OCLCアジア太平洋地域支配人
- 5.24 中国青年学生訪日交流代表团
広東省大学代表团
ザイード大学(アラブ首長国連邦)副学長
- 5.26 高麗大学校人文学部長
- 5.27 上海市青少年友好交流団
- 6.5 延世大学校経営学院(韓国)教員
- 6.29 ハーバード大学イェンチン図書館職員
- 7.4 ミシガン大学図書館職員
- 7.7 大韓民国学術院会長
- 7.10 リオデジャネイロ州立大学(ブラジル)教員
- 7.24 ジュネーブ大学文学部教員
- 8.2 駐日ウズベキスタン大使
- 8.21 国立台湾大学図書館職員
- 8.24 河北大学(中国)校長
- 9.14 ヘブライ大学ユダヤ研究学科教員
- 9.22 リール政治学院(フランス)院長
- 9.28 米国議会図書館職員
- 10.2 ワシントン大学図書館職員
- 10.3 ドイツ大学学長・事務総長訪日団
- 10.10 ロシア極東総合大学副総長
- 10.12 全北大学校(韓国)職員
- 10.19 フランス外務省・ボンビドーセンター図書館職員
- 10.20 北京大学校長
- 11.1 人民大学習堂(朝鮮民主主義人民共和国)総長
- 11.2 カルガリー大学(カナダ)学長
- 11.8 UCLA学長

- 11.15 鮮文大学校(韓国)総長・図書館長
- 11.29 華東師範大学(中国)副校長
- 12.6 国際交流基金関西国際センター
「研究者日本語研修」参加者
- 12.12 ベトナム国立大学教員
- 12.18 共立国際交流奨学財団招待者

2001年

- 1.19 日中間交流研究所言語教育提携大学代表团
- 2.8 国際交流基金「日本研究司書研修」参加者
- 2.14 中国日本友好協会秘書長
- 2.21 駐日イスラエル大使
- 3.7 バングラデシュ選挙管理委員長
- 3.12 ブルネイ・ダルサラーム大学副学長
- 3.13 コロンビア大学国際関係・公共政策大学院院長
- 3.29 ノルウェー工科大学学長

専任職員異動・嘱任(管理職)

日付	氏名	新	旧
6・1	三浦 育子	総合閲覧課長〔兼務解任〕	総合閲覧課長兼映像資料課長
12・1	旭 英樹	事務副部長〔兼務解任〕	事務副部長兼総務課長
12・1	中元 誠	総務課長〔新規嘱任〕	総務課

専任職員異動・嘱任(一般職)

日付	氏名	新	旧
6・1	加藤 早苗	図書課	高田早苗記念研究図書館(政経)
6・1	夏井 友子	図書課	理工学図書館
6・1	大坪 ゆき	整理課	図書課
6・1	亀本 道政	整理課	理工学図書館
6・1	岡田 広之	総合閲覧課	所沢図書館
6・1	瀬山 峯徳	総合閲覧課	映像資料課
6・1	山戸 孝仁	雑誌課	図書課
6・1	尾関 淳子	高田早苗記念研究図書館	高田早苗記念研究図書館(法文)
6・1	平井 志都葉	高田早苗記念研究図書館(政経)	総合閲覧課
6・1	小原 貴彦	高田早苗記念研究図書館(法文)	理工学図書館
6・1	能登 康弘	高田早苗記念研究図書館(商・産研)	高等学院
6・1	仲谷 由香里	理工学図書館	雑誌課
6・1	山竹 由美子	理工学図書館	映像資料課
6・1	岡田 瑞江	所沢図書館	整理課
6・1	小泉 扶	高等学院	高田早苗記念研究図書館
6・1	松山 薫	総合閲覧課〔兼務解任〕	総合閲覧課兼映像資料課
6・1	吉田 克己	総合閲覧課〔兼務解任〕	総合閲覧課兼映像資料課
12・1	高橋 静枝	大学史資料センター	理工学図書館

専任職員退職(定年)

日付	氏名	所属
11・30	小野 隆雄	戸山図書館

学外機関委員等嘱任

嘱任	氏名
私立大学図書館協会国際図書館協力委員会委員 2000年10月1日～2001年3月31日	中元 誠

図書館別職員数内訳表(理論値)

2001.5.1

日付	中央	高田	戸山	理工	所沢	本庄	出向	合計
管理職	9	1	1	1	1	0	0	13
司書職	35	9	2	5	2	0	8	61
事務職	14	5	3	4	1	0	2	29
学生職員	6	1	1	2	2	0	0	12
職員合計	64	16	7	12	6	0	10	115
派遣社員	8.7	5.9	4.4	9.9	3.7	1.5		34.1
請負:カウンター	17		5					22
請負:整備班	4		4					8
請負:ニチマイ	7							7
請負:紀伊國屋	26							26
人数合計	126.7	21.9	20.4	21.9	9.7	1.5	10	212.1
5月の開館日数	28	24	24	24	24	24		

1. 派遣社員はのべ時間数をフルタイム換算した理論数値。
各館合計時間数 ÷ 開館日数 ÷ 7時間 = フルタイム換算数



予算・決算

(単位:円)

	予算額	決算額	差異
図書費	572,532,000	537,304,272	35,227,728
図書資料費	104,310,000	97,727,311	6,582,689
データベース資料費	7,362,000	37,368,555	-30,006,555
一般運営経費	34,189,000	33,556,930	632,070
修繕費	52,450,000	49,975,998	2,474,002
委託費	100,381,000	177,042,896	-76,661,896
賃借料	3,551,000	3,111,790	439,210
設備関係費	16,746,000	24,845,962	-8,099,962
一般研究費	3,800,000	3,795,783	4,217
予備費	5,400,000	0	5,400,000
合計	900,721,000	964,729,497	-64,008,497

1. 人件費は含まず。
2. 別途、補助金対象の図書費 29,085,000円あり。

年間受入図書資料数

中央図書館

	購入		寄贈		合計		
	2000年度	前年度	2000年度	前年度	2000年度	前年度	
和書	10,099	9,220	8,842	7,216	18,941	16,436	
洋書	6,178	6,440	10,815	2,404	16,993	8,844	
合計	16,277	15,660	19,657	9,620	35,934	25,280	
雑誌(種)	和	1,129	1,029	3,848	3,622	4,977	4,651
	洋	1,132	1,124	196	201	1,328	1,325
マイクロ資料	(R)	(39)	(44)	0		(39)	(44)
	(S)	693	1,279			693	1,279
視聴覚資料(点)	1,448	2,015	26	84	1,474	2,099	
一般図書・参考図書(冊)	7,758	7,590	1,072	517	8,830	8,107	

()は種類数

戸山図書館

	購入		寄贈		合計		
	2000年度	前年度	2000年度	前年度	2000年度	前年度	
和書	7,014	7,847	994	607	8,008	8,454	
洋書	2,181	2,589	209	273	2,390	2,862	
合計	9,195	10,436	1,203	880	10,398	11,316	
雑誌(種)	和	290	285	1,120	1,082	1,410	1,367
	洋	393	378	39	37	432	415
視聴覚資料(種)	43	37	0	1	43	38	

図書館別 図書費・図書資料費予算

(単位:円)

	図書費	図書資料費	合計
中央図書館	289,837,000	59,974,000	349,811,000
戸山図書館	49,416,000	24,685,000	74,101,000
理工学図書館	141,989,000	4,541,000	146,530,000
所沢図書館	70,000,000	15,110,000	85,110,000
高田早苗記念研究図書館	307,125,000	36,198,000	343,323,000

高田早苗記念研究図書館の図書費・図書資料費は同図書館より執行される関連箇所(学部・研究所)の図書費図書資料費および図書館予算図書費高額資料)22,040,000円の合算値

高田早苗記念研究図書館

	購入		寄贈		合計	
	2000年度	前年度	2000年度	前年度	2000年度	前年度
和書	5,477	3,911	1,281	564	6,758	4,475
洋書	9,924	9,477	806	191	10,730	9,668
合計	15,401	13,388	2,087	755	17,488	14,143
視聴覚資料(種)	1	1	0	0	1	1

理工学図書館

	購入		寄贈		合計		
	2000年度	前年度	2000年度	前年度	2000年度	前年度	
和書	502	511	116	263	618	774	
洋書	1,245	1,329	25	219	1,270	1,548	
合計	1,747	1,840	141	482	1,888	2,322	
雑誌(種)	和	559	553	700	708	1,259	1,261
	洋	866	856	257	243	1,123	1,099
視聴覚資料(種)	12	8	0	0	12	8	
学生読書室	3,838	3,643	77	201	3,917	3,844	

所沢図書館

	購入		寄贈		合計		
	2000年度	前年度	2000年度	前年度	2000年度	前年度	
和書	2,374	1,849	128	134	2,502	1,983	
洋書	766	256	24	5	790	261	
合計	3,140	2,105	152	139	3,292	2,244	
雑誌(種)	和	285	267	161	135	446	402
	洋	560	557	4	4	564	561
視聴覚資料(種)	4	13	0	0	4	13	

所蔵図書資料

所蔵資料総数(中央図書館・キャンパス図書館(高田・戸山・理工学・所沢))2000年度末

	図書(冊数)	雑誌(種類)
和書	2,087,103	和雑誌 20,273
洋書	1,289,226	洋雑誌 8,965
合計	3,376,329	合計 29,238

中央図書館

図書(冊数)

	1999年度末累計	整理数	移籍増減数	2000年度末累計	
研究図書合計	1,542,761	33,650	563	1,576,974	
内訳	和書	1,032,294	21,430	146	1,053,870
	洋書	510,467	12,220	417	523,104
雑誌合計	293,883	6,522	0	300,405	
内訳	バックナンバー和	173,180	4,187	0	177,367
	バックナンバー洋	120,703	2,355	0	123,038
一般図書合計	160,231	8,589	-1,240	167,580	
内訳	和書	153,638	8,521	-1,227	160,932
	洋書	6,593	68	-13	6,648
参考図書合計(一般)	4,654	246	-157	4,743	
内訳	和書	4,195	229	-151	4,273
	洋書	459	17	-6	470
参考図書合計(研究)	(21,005)			(21,763)	
内訳	和書	(10,837)			(10,420)
	洋書	(10,168)			(11,343)
総合計	2,001,529	49,007	-834	2,049,702	

和には中・ハンゲルを含む。()は研究図書の参考図書扱い(内数)

雑誌(種類数)

	1999年度末数	新受入	移籍増減数	2000年度末累計
和	10,144	266	0	10,410
洋	3,619	27	0	3,646
合計	13,763	293	0	14,056

和には中・ハンゲルを含む。

視聴覚資料(点数)

	1999年度末数	整理数	移籍増減数	2000年度末累計
ビデオテープ	3,551	301	0	3,852
レーザーディスク	5,267	613	0	5,880
CD	12,279	560	0	12,839
録音テープ(含、カセット)	1,502	0	0	1,502
レーコード	20,715	0	0	20,715
マイクロフィルム	(1,030)61,836	(11)1,501	0	(1,041)63,337
マイクロフィッシュ	(235)751,294	(6)23,235	0	(241)774,529
CD-ROM	71	1	0	72

()は種類数

高田早苗記念研究図書館

図書(冊数)

	1999年度末数	整理数	移籍増減数	2000年度末累計
和書	200,638	5,573	-37,157	169,054
洋書	314,729	14,836	-30,903	298,662
合計	515,367	20,409	-68,060	467,716

分類切替に伴い、重複図書(和書37.15冊、洋書30.90冊)を中央図書館に移籍した。

視聴覚資料(種類数)

	1999年度末数	整理数	移籍増減数	2000年度末累計
マイクロフィルム	0	0	0	0
マイクロフィッシュ	2	0	0	2
CD-ROM	6	3*	-1	5

*は継続分を含む

戸山図書館

図書(冊数)

	1999年度末数	整理数	移籍増減数	2000年度末累計	
研究図書	148,021	3,672	-43	151,650	
内訳	和書	81,279	1,399	-19	82,659
	洋書	66,742	2,273	-24	68,991
学習図書	87,216	6,159	-865	92,510	
内訳	和書	81,982	6,096	-860	87,218
	洋書	5,234	63	-5	5,292
専修室図書	61,299	1,396	0	62,695	
内訳	和書	42,647	1,010	0	43,657
	洋書	18,652	386	0	19,038
合計	296,536	11,227	-908	306,855	

雑誌(種類数)

	1999年度末数	新受入	移籍増減数	2000年度末累計	
内訳	和	4,946	43	0	4,989
	洋	1,087	17	0	1,104
合計	6,033	60	0	6,093	

視聴覚資料(種類数)

	1999年度末数	整理数	移籍増減数	2000年度末累計
ビデオテープ	3	3	-1	5
マイクロフィルム	35	3	0	38
マイクロフィッシュ	74	0	0	74
CD-ROM	64	28	0	92
その他	21	0	0	21

理工学図書館

図書(冊数)

	1999年度末数	整理数	移籍増減数	2000年度末累計	
理工学図書館	286,586	6,288	19	292,893	
内訳	和書	97,275	1,933	7	99,215
	洋書	189,311	4,355	12	193,678
学生読書室	107,744	3,838	-5,942	105,640	
内訳	和書	106,431	3,832	-5,942	104,321
	洋書	1,313	6	0	1,319
合計	394,330	10,126	-5,923	398,533	

雑誌(種類数)

	1999年度末数	新受入	移籍増減数	2000年度末累計	
内訳	和	4,149	5	11	4,165
	洋	3,394	14	6	3,414
合計	7,543	19	17	7,579	

視聴覚資料(種類数)

	1999年度末数	整理数	移籍増減数	2000年度末累計
ビデオテープ	0	0	0	0
CD	0	0	0	0
録音テープ(含、カセット)	0	0	0	0
レーコード	0	0	0	0
マイクロフィルム	12	0	0	12
マイクロフィッシュ	6	0	0	6
CD-ROM	10	12	0	22



所沢図書館
図書(冊数)

	1999年度末数	整理数	移籍増減数	2000年度末累計
和書	102,477	2,862	- 862	104,477
洋書	48,143	863	- 20	48,986
合計	150,620	3,725	- 882	153,463

雑誌(種類数)

	1999年度末数	新受入	移籍増減数	2000年度末累計
和	597	44	0	641
洋	789	12	0	801
合計	1,386	56	0	1,442

視聴覚資料(種類数)

	1999年度末数	整理数	移籍増減数	2000年度末累計
ビデオテープ	211	32	0	243
レーザーディスク	27	0	0	27
録音テープ(含、カセット)	5	0	0	5
マイクロフィルム	35	0	0	35
CD-ROM	14	2	0	16

利用状況

開館日数

中央図書館	303日
高田早苗記念研究図書館	279
戸山図書館	259
理工学図書館	268
理工学部学生読書室	255
所沢図書館	262

中央図書館には日曜開館33日を含む

入館者数

		教職員	大学院学生	学部学生	校友	その他	合計
中央図書館	2000年度	21,678	136,939	873,137	146,784	46,198	1,224,736
	前年度	21,867	131,681	910,309	143,109	42,738	1,249,704
高田早苗記念研究図書館	2000年度	4,127	42,218	1,981	428	1,496	50,250
	前年度	4,131	44,573			3,969	52,673
戸山図書館	2000年度	6,436	41,115	388,414	27,683	9,797	473,445
	前年度	5,819	37,027	366,274	35,402	1,937	446,459
所沢図書館	2000年度	3,246	16,533	91,321	1,240	2,942	115,282
	前年度	3,377	17,046	96,748	1,197	2,631	120,999

1.理工学図書館の入館者数は、システムの関係上集計されていない。
2.高田早苗記念研究図書館の前年度は学部学生・校友・学外・その他全てを「その他」として計上している。

貸出冊数

中央図書館

	教職員	大学院学生	学部学生	その他	合計
研究図書 2000年度	14,367	42,000	26,938	7,599	90,904
前年度	15,413	44,919	13,569	9,947	83,848
一般図書 2000年度	4,878	36,124	238,646	4,517	284,165
前年度	3,791	31,307	245,997	3,789	284,884
合計 2000年度	19,245	78,124	265,584	12,116	375,069
前年度	19,204	76,226	259,566	13,736	368,732

戸山図書館

	教職員	大学院学生	学部学生	その他	合計
研究図書 2000年度	970	3,239	2,676	389	7,274
前年度	956	2,739	1,520	449	5,664
学習図書 2000年度	1,376	8,090	63,535	897	73,898
前年度	1,186	4,815	39,985	1,518	47,504
合計 2000年度	2,346	11,329	66,211	1,286	81,172
前年度	2,142	7,554	41,505	1,967	53,168

高田早苗記念研究図書館

	教職員	大学院学生	その他	合計
図書 2000年度	4,436	21,298	1,632	27,366
前年度	5,670	19,671	1,364	26,705

理工学図書館

	教職員	大学院学生	学部学生	その他	合計
理工学図書館 2000年度	967	4,625	6,143	1,423	13,158
前年度	1,249	4,939	7,035	787	14,010
学生読書室 2000年度	955	23,490	147,373	1,380	173,198
前年度	1,050	20,637	143,087	958	165,732
合計 2000年度	1,922	28,115	153,516	2,803	186,356
前年度	2,299	25,576	150,122	1,745	179,742

所沢図書館

	教職員	大学院学生	学部学生	その他	合計
図書 2000年度	1,318	6,724	31,471	276	39,789
前年度	1,287	6,489	31,053	306	39,135

利用状況

学外相互協力

	件数	文献複写	資料貸借	紹介状
中央図書館	依頼	3,020	1,008	1,374
	受付	4,645	855	2,016
理工学図書館	依頼	3,415	311	228
	受付	4,461	46	1,004
所沢図書館	依頼	2,579	73	65
	受付	2,358	16	25
合計	依頼	9,014	1,392	1,667
	受付	11,464	917	3,045

1.高田、戸山は中央図書館の件数に含まれる
2.中央図書館は謝絶を含まない

複写枚数

	2000年度	前年度
中央図書館	3,991,056	4,242,746
高田早苗記念研究図書館	344,073	357,584
戸山図書館	765,337	768,723
理工学図書館	638,992	664,570
所沢図書館	303,860	286,588
合計	6,044,318	6,320,211